ふつうに生活しているだけなのに

浜松市内小学校
甲田さん

きれいだなあ。私が家族と見た下田の海は、真冬だというのに飛び込みたくなってしまうほど美しい海でした。その水面はまるで、青空が波打っているようでした。それに、砂浜にもゴミがありませんでした。私はその時、世界中の海がこうだったらいいのにな、と思いました。それは、ゴミだらけだったり海水が緑色ににごってしまった、色んな海の映像を見たことがあったからです。だから、もしもこの美しい海までゴミだらけになってしまったり、海水が汚れてしまって海の生き物たちが住みづらくなったりしたらいやだなと思いました。でも、もしもこのまま何もしなかったら、この海もそうなってしまうかもしれません。

だとしたら、私たちができることはなんだろう。海岸のゴミを拾うのか、川のゴミを拾うのか、海の中に入って拾うのか、すぐにできる小さな働きかけはいくつか考えられます。けれど、まず私は「いま、世界の海で何が起きているのか」を知ることが大切だと思いました。

すると、びっくりすることが分かりました。例えば、海にあるゴミの半分以上がプラスチックだということ、テレビで知った「マイクロプラスチック」は自然界では半永久的に分解されないことや、そのマイクロプラスチックが人の便からも見つかることを知りました。中でも私がショックだったのは、クジラの体から六キログラムものプラスチック製品が発見されたことでした。私は家にあった五キロのお米と一キロの油を持ってみましたが、こんなに重たいものが体に入っていたら気持ちが悪いし、クジラがかわいそうだと思いました。そして、海の生き物が泣いているような気がして、ゴミを海にポイ捨てしている人を心の中で責めました。なぜなら、ポイ捨てする人だけが「加害者」だと思っていたからです。でも、違いました。本当は、私たちの誰もが「加害者」でした。私もあなたも気づかないうちに、海や海の生き物を傷つける「加害者」になってしまっていたのです。どういうことかというと、例えば、衣類にはプラスチック繊維が使われていますが、それを着ているうちにすりへる時に、小さなプラスチックをまき散らしてしまっているそうなのです。ということは、ふつうに生活しているだけで、海を汚したり、生き物を傷つけてしまったりしているということになります。私は動物が大好きなので、自分が「加害者」になっているなんて信じたくありませんでした。

そこで、私はプラスチックを使わない生活をしてみようと思い、一

日だけチャレンジしてみました。だけど、服も着られないし、気に入っているヘアピンも付けられませんでした。それに、歯ブラシも使えないし、ペンもボールも扇風機も使えず、朝九時にはチャレンジが終わりました。私は、こんなにプラスチックに頼っていたなんて思ってもいませんでした。それと同時に、「加害者」をやめれもしないんだと思うと、モヤモヤしました。

私は、本当は海も海の生き物も傷つけたくありません。それはみんな同じ気持ちだと思います。だけど、どうしてもプラスチックがなければ生活していけないのなら、私ができることは、小さなことしかないのかもしれません。例えば、いらないおまけのオモチャをもらうのをことわったり、紙製品を選ぶ、などです。小さなことかもしれないけれど、世界中のみんながやれば大きなパワーになって海や海の生き物が守られると思います。そうして、いつか世界中の海があの下田の海みたいになったらうれしいです。